

美術館教育普及報告書

平成 29 年度



沖縄県立博物館・美術館

平成 29 年度 美術館教育普及報告書

目 次

- 04 はじめに
- 05 本年度の取り組み
- 06 キュレータートーク / 学芸員の声
- 07 アーティスト・ギャラリートーク / ミュージアムツアー
- 08 学芸員講座
- 09 ボランティア活動報告 / ボランティアの声
- 10 招聘事業「美術館へ行こう」
- 11 児童・生徒の声
- 12 アートミュージアムキッズクラブ
- 13 コンクール
- 14 夏休みこどもフェスタ
- 16 移動展 in 北大東
- 17 移動展アウトリーチ
- 18 ハンズオンキット
- 20 その他 名画を贈ろう・学生提案型企画
- 21 展覧会関連催事 「写真家が見つめた沖縄」
- 22 展覧会関連催事 「安次富長昭」
- 23 展覧会関連催事 「沖縄美術の流れ」
- 24 展覧会関連催事 「ベトナム絵画展」
- 25 展覧会関連催事 「金城安太郎」
- 26 展覧会関連催事 「彷徨の海」
- 28 展覧会関連催事 「邂逅の海」
- 29 実施統計
- 37 さいごに

[はじめに]

平成 19 年 11 月に開館した沖縄県立博物館・美術館は、昨年度おかげさまで開館 10 周年を迎えることが出来ました。入館者数は 480 万人を超えております。これも県民の皆様をはじめ、県内外の多くの皆様の当館に対する期待の表れだと考えており、併せて、我々に課された使命の大きさを改めて感じているところであります。

美術館の主な活動内容には 5 つの柱があります。「収集」・「保存」・「調査研究」・「展示公開」そして、「教育普及」があげられます。教育普及活動は、美術館が文化や知識の発信地として、誰もが美術や芸術に対する「美意識」を共有することができる場を創出することで、より多くの皆様に美術に親しみ、美術を楽しんで頂くことを目的としております。

本報告書は、平成 29 年度に実施した美術館の企画・コレクション展関連催事、学校団体鑑賞プログラム、各種ワークショップ、ミュージアムツアー、移動展などの幅広い教育普及事業の活動の内容をまとめたものです。

本年度新しく取り組んだアートコンクールやリーフレットの作成では、美術館と外部団体・個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を美術館から発信することができたと考えています。

本報告書が、皆様にとって県立博物館・美術館を活用する契機となるとともに教育普及活動に対する理解の一助になれば幸いです。

平成 30 年 3 月 沖縄県立博物館・美術館 館長 田名 真之

[本年度の取組み]

本年度の教育普及事業では、従来から取り組んでいる学校との連携を図る鑑賞プログラムである「学校団体対応プログラム」や当館がバスを手配し美術館に招待する「美術館へ行こう」を実施するとともに、学校に出向いて先生方に向けた鑑賞授業のサポートを行う「出前授業」を実施しました。また、小学校・中学校・高等学校・大学と美術館が連携した授業として、キャリア教育、鑑賞プログラムを取り入れることができました。

また、今年度より、当館及び美術への興味・関心を高め、親しめる美術館作りを目的としたアートコンクールへの参加を県内の児童生徒を対象に呼びかけました。また県内外の方々に「沖縄にある美術館」を強くアピールすることを目的に美術館パンフレットを作成、子どもたち（主な対象3～6歳）が親子で楽しみながら当館や沖縄美術への関心を持ってもらうことを目的に昨年度制作した「沖縄アート遊具」を運用しました。新たな取り組みを行うことで様々な個人・団体との連携を図ることができ、新規来館者の開拓に繋がったと考えられます。

普及の一環としてさらに、沖縄明治乳業が行う「私たちの学校に世界の名画・沖縄の名画を贈ろう！」キャンペーンに当館所蔵作品の画像を提供する形で協力し、多数の学校に沖縄の名画を贈ることができました。

本年度の常設展では「美術館ニューコレクションシリーズ3」として「安次富長昭展」、「金城安太郎展」「ベトナム絵画展」を開催し、たくさんの関連付帯催事を通して作品理解が深まる情報を提供しました。

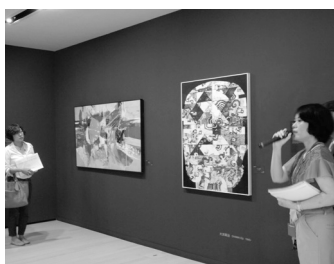
そして開館10周年記念展は「交流」ー Open Sea「海は島々をつなぐ、開かれた道である」をテーマに台湾と沖縄、沖縄にゆかりのあるアーティストによる百数十点の美術作品を展示公開しました。歴史的観点で沖縄と台湾との美術動向を紹介する『彷徨の海ー旅する画家・南風原朝光と台湾、沖縄』展、美術表現の多様性を中心に考えた『邂逅の海ー交差するリアリズム』展とを二つの会期と開場に分けて開催し、県内、国内外からも多くの来館者を迎えることができました。

教育普及担当 富原圭子

キュレータートーク

キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究した内容を語る場でもある。

観覧者にとっては、学芸員の話聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展示会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後の展覧会に向けての情報収集となる。



学芸員の声

大城 さゆり

本年度は、企画ギャラリーで「山元恵一展 まなざしのシュルレアリスム」と「10周年記念展 邂逅の海」を開催した。山元恵一展は、戦後から晩年にかけての山元作品を一堂に展示したほか、戦前の交友関係を示す資料なども紹介した回顧展であった。担当学芸員は展示に沿って、山元の画風の変遷や作品の背景について解説を行った。邂逅の海では、学芸員単独の催事ではなく、作家との対話形式でのギャラリートークを開催し、作品の理解を深める試みを行った。

コレクションギャラリーでは、「安次富長昭展 - 光・風・土への憧憬 - 」、「写真家が見つめた沖縄 1972-2017」、「《今帰仁城盛衰記》 - 知られざる金城安太郎の仕事」、「ベトナム絵画展」、「沖縄美術の流れ」、そして「10周年記念展 彷徨の海 - 旅する画家・南風原朝光と台湾、沖縄」を開催した。安次富長昭展は担当学芸員および前年まで調査を担当していた仲里安広氏が、作品の背景や変遷について解説した。今帰仁城盛衰記とベトナム絵画展では、それぞれ歴史や文化に詳しい識者を招き、担当学芸員と質疑応答する形でギャラリートークを開催した。沖縄美術の流れでは、歴史的背景を交えた解説に加え、素材や技法、個々の作品の修復等について説明した。

作品が作られた背景に加え、各学芸員の研究を踏まえた解説を行った。さらに聴衆が学生であるかどうかなどによって、適宜内容を修正しながら、幅広い鑑賞者に興味を持ってもらえるよう工夫をしている。

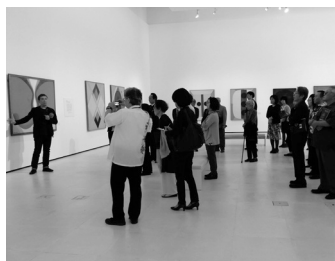
アーティスト・ギャラリートーク

アーティストトーク、ギャラリートークは、作家本人や作家とゆかりがある、あるいは研究者から話を聞く機会である。作家自身から作品、制作に関することや思いを直接聞くことで作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて新たな気づきや理解がより深まっていくことに繋がっていく。

作家の言葉

山城 えりか

私の作品には、女性の神秘性やガーリーをテーマにしている作品がある。私はポジティブな面もネガティブな面も含めて女性という生き物を愛し、楽しんでいる。私にとってのパワースポットはガーリーな空間だ。そこからエネルギーを貰いキャンバスという宝石箱に閉じ込める。ファッション雑誌から気に入った靴やバッグ、モデルの写真などをノートにコラージュしてコレクションする少女のような感覚で、自分自身がときめくモチーフを絵の中に閉じ込めている。絵の中に小さなモチーフをこっそりちりばめる感覚は、女性がネイルにラインストーンをちりばめる感覚に近い。時にピアスのように小さく、こっそり描かれた動植物や昆虫といったモチーフに気づかない人もいるかもしれないが、気づいてくれる方とその遊び心を共有したい。



ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側への案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。教育普及担当の学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事を解説する。特に修復室における実際の作業に関する説明は、多くの参加者の関心を引いている。夏休みの時期となる8月には、親子を対象としたツアーを実施した。

- ① 実施：年5回 土曜日 10:30～12:00
- ② 内容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する
- ③ 定員：12人



美術館 学芸員講座

学芸員とは、美術館や博物館で働き展示する作品・資料のお世話をする仕事である。英語では学芸員を『キュレーター』と呼び、語源は『ケア（世話・配慮）』からきている。学芸員室や研究室と呼ばれる場所を活動の拠点として、作品・資料の収集・保管・調査・研究などを行ったり、定期的に展覧会の企画・開催などをおこなうことが主な業務になる。文化的な作品・資料の持つ本当の価値を、美術館や博物館といった場所で、たくさんの人々に伝えていくことが最大の使命だと言えるだろう。

そこで当館学芸員が展覧会調査や作家調査の成果、あるいは、美術館業務で担当している内容等を広く県民の皆様公開することを目的に開催し、今年度は計4回実施した。また、ギャラリートークとアーティストトークをタイアップすることで充実が図れた。

回	月日	曜	展示会名	担当
1	6月11日	日	金城安太郎と《今帰仁城盛衰記》	玉那覇英人
2	7月30日	日	「描かれたベトナム」ー絵から読み解く歴史・文化ー	大城さゆり
3	9月17日	日	「美術品の保存について」ー保存修復の現場からー	梶原正史
4	2月17日	土	「沖縄アート遊具」の開発について	島筒 格



学芸員の声

梶原 正史

展覧会催事として行うキュレータートークと異なり参加者の陣容が幅広く、学芸員講座を開催したことは、受講者のみならず美術館にとっても意義のあることであった。私の専門は美術品の保存修復であるが、その研究内容や日頃どういった事を行っているのかは来館者には不透明である。それを伝えることで学芸員の仕事の一端を知られることになればと思うし、また展覧会も違った見方ができると感じた。また個人的な意見ではあるが、自身の研究を人にわかりやすく伝えるといったことは研究の振り返りにもなり、観客から質問が飛べば、気づきを与えてくれる。講座を行うことは研究のステップアップとなった。

美術館学芸員講座として、学芸員の調査研究の成果や美術館業務の紹介などの報告は、大学や社会教育、生涯教育との連携で取り組むことにより、美術館が外に開かれ、より充実する可能性を秘めている。



ボランティア活動報告

美術館のボランティアスタッフは、学校団体に向けた作品鑑賞を実施するガイドボランティア、作品づくりのワークショップをサポートするワークショップボランティア、美術関連書籍を整理する資料整理ボランティアと3つのグループに分かれ、それぞれが特技を活かし美術館の活動を盛り上げている。

ボランティアの声

福島弘子（ワークショップボランティア）

幼い頃、母の連れられて行った美術館で見た大きな桜の絵。

童話の挿絵が少し怖かった記憶。

数年の時を経て、東山魁夷やロートレックの作品である事を知りました。

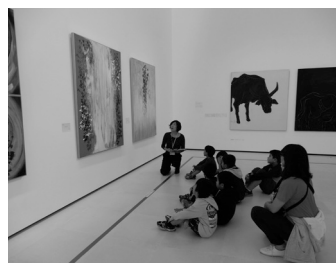
ワークショップでは、子供達の作品作りのサポートを担当させて頂いておりますが、その感性の豊かさに驚くばかりです。夏休みの企画で作ってアニメーション映画では、各々の個性を繋ぎ合わせ、ひとつのストーリーにする作業に子供達の眼は輝き興味津々。アニメーション作家の御尽力で仕上がった作品の上映会では、自分の描いたイラストが映る度に個々に歓声が上がリ、私自身も自分の下手なイラストが映った一瞬に感激してしまいました。

学ぶというよりは、体験するワークショップ。数年後、子供達にも思い出して微笑む日が来るはずです。美術館がそんな素敵な場所である事を沢山の子供達に知って欲しい、体験して欲しいと思っています。

松尾康生（鑑賞ボランティア）

スタッフや先輩の皆さんと一緒にやって来ました、只今ようやく2年生です。

きっかけは、『『対話型鑑賞法』で子供達の将来を変えられる』所に大変興味があってこの世界に踏み込みました。まだまだ10回ちょっとの実践ですが県内各地からの小学生を実際にアテンドしました。最初はみんな黙って様子をうかがっていますが、私の一言で反応し始め、一人の子供が話しかけると、次の子供が話し出す。まさに個性のぶつかり合いが起こり、ほかの子供達もその絵に集中し始める。時々今までにはないハットするような捉え方をする子供もいたりして、これがボランティアをやっている楽しみのひとつです。これからも、このプログラムの実践を継続していくこと、すこし大袈裟かもしれませんが、小さな積み重ねで子供達を育み、それが社会や世界を変えることに繋がることを信じて。



美術館招聘事業「美術館へ行こう」

平成24年度からスタートした美術館招聘事業「美術館へ行こう」も今年で6年目となり、今年度は本島内の小中学校に対して公募を行った。そして博物館との連携も図り博物館常設展示室の見学もプログラムに導入した。その結果、9月から12月にかけて前年度の3校増の11校（692人）の児童生徒が美術館に足を運び、作品の鑑賞を楽しんだ。来館前の出前授業で、先生方に鑑賞授業のレクチャーを行った。ティーチャーズキットやアートカードを活用した鑑賞の授業とマナーについて学んだ。当日、児童生徒はガイドボランティアと一緒にコレクションギャラリーを巡り、対話による鑑賞を通して多くの気づきと感動が生まれた。児童にとってこの体験が美術館鑑賞のスタートとなり、今後の美術館での鑑賞に大きな期待をもたらすきっかけになることを期待する。

回	期 日	曜日	校 名	見学者
1	9月20日	水	国頭村立安田小学校（1～6年）	19
2	9月21日	木	西原町立西原南小学校（6年）	57
3	9月22日	金	国頭村立奥間小学校（4. 5年）	35
4	9月26日	火	豊見城市立座安小学校（6年）	61
5	10月3日	火	名護市立東江小学校（5年）	110
6	10月4日	水	読谷村立読谷小学校（6年）	103
7	10月5日	木	名護市立久辺小学校（5. 6年）	52
8	10月12日	木	宜野湾市立普天間小学校（3年）	105
9	12月6日	水	沖縄市立中の町小学校（6年）	65
10	12月7日	木	糸満市立真壁小学校（5年）	25
11	12月8日	金	沖縄市立美里小学校（特別支援学級）	60



ボランティアによる対話鑑賞

出前授業の様子

事前学習「出前授業」 ＊資料＊

- 授業プレゼン（45分用）
- 授業指導案
- ティーチャーズキット
- アートカード
- 鑑賞のヒント
- 実物大コピー絵画
- 招聘事業アンケート（教師用）
- 振り返りシート（生徒用）

教育普及 2017

沖縄県立博物館・美術館

Art museums
School support
Programs

美術館へいこう！2017

★振返りシート★

____年 ____組 ____名

① 日時：(/) 月 () 日 (木) 曜日

② どこに行きましたか？

おきなわ県立 はくぶつ 食育びじゅつ 館

③ 見学した感想をかきましょう。

どんな作品を見たかな？どう思ったかな？

てんぐみたいな絵が 書かれて いる 作品 を 見ました。
はじめに見たときは なんだ？ この カラフル は？ と思いまし
てもよく 見ていると、なんだか てんぐ が せき を して、口から ち
づ が出て きた よう な 絵 に 見えて きました。

他には、どんな ひみつ が かく されて いる の か ？
と 思って さが して みた けど、 時間 が 終 っ て し ま い、
あ と い つ に 気 づ く こ と が ぞ ぎ ま せ ん で し た。

と て も 気 に な る の で、 ま た 今 度、お 母 さ ん と いっしょ に 来 て、
あ と い つ の ひみつ を 見 つ れ たい で す。

沖縄県立博物館・美術館 2017

教育普及 2017

沖縄県立博物館・美術館

美術館へいこう！2017

★振り返りシート★

5 年 / 組 名前 _____

① 日時：() 月 () 日 (木) 曜日

② どこに行きましたか？

沖縄県立博物館・美術館

③ 見学した感想をかきましょう。

どんな作品を見たかな？どう思ったかな？

今日の見学で思ったこと

は、絵をみながらたねが、どんなことを想像し書いたのか、どのような場面を書いているのかを考えながらみると、より楽しくなるということです。また、いろいろなことを想像したら、今までとは違った絵が書けると思いました。また、機会があったら行きたいです。

沖縄県立博物館・美術館 2017

沖繩県立博物館・美術館を見学して-1

1年5組6番 伊集ひろか

はじめて見た常設展示室に飾られていた「静聴〜蝶〜」という作品に目ぼきがあった。大きく描かれたところとほらより大細に、細かくところは細かく青く色差されていた。とても美しくかった。また、「カタバタ」という作品が美しくさへ使われており、同じ青かと思ったら薄かったり濃かったり赤みがあったり白みがあったり、見ていて飽きない。青が好きになるような面白くて美しい絵だ。インディア料の先陣たる作品もとても綺麗で、家に置きたくなる家具ばかりでとてもよかったです。

1年5組27番 奥眞亜沙沙

普段美術館に行く機会が年に2、3回くらいしかなかったのを、これからまた見に行きたいという気持ちが高まりました。各場所を見て回るには時間が取られていてゆっくり見られなかったのが惜しいです。

インディア料卒業や修得の海などとても良かったのですが、特に趣意の海の展示作品がどれも自分の中に来るものばかりで見て見聞ももっと欲しかったです。来春まで展示しているそんな素晴らしい作品を見つけないか今年ぜひ見て見聞したいです。バックカードツアーでは裏側を色々と見学して、展示されている作品がとても数多く並べられていることを知ることができました。沖縄は湿度も温度も高いのを、その分気をづけるのが保管しているんだなととても大変だなと思いました。バックカードツアーでしか見られなかった事もたくさんあったので、とても貴重な体験が出来たと感じています。本当にありがとうございました。

1年5組31番 松村春花

普段見ることのできない美術館の裏を見学できてとても貴重な体験になりました。私が思ったより多くの美術館の裏は広くてびっくりしました。 修復室での絵画製作の様子に於ける作業の様子など見たい大変そうと、今私たちが美術館などで観る絵画を見ることが出来るのは美術館側の方が見えないところでの努力のお陰なんだなと思います。これからは、絵画製作の様子を少し違う視点で見てみることで楽しみたいです。改めてとても貴重な楽しい体験をさせてもらい、ありがとうございました。

1年5組38番 与那願夏乃

一番印象に残った場所はバックカードの修復室です。案内では「絵の保護室」とわかりやすく説明してくれました。また、修復方法として使われる道具や機械が初めて見ました。絵画で地道に行っていることがわかりました。展示されている「17歳の海」と「産後の海」は、前々から気になっていたので見ることができて本当に良かったです。沖縄の芸術作品は意味深い作品が多い気がしますが、私は喜々として男性さんの作品がいっぱいおもしろいと思いました。全体的に青系の作品が多くて、直前に展示されているような大画面などいろいろありやすかったです。デザイン絵の巻いた作品を見ても、すごく盛り上がるので楽しかったです。バックカードツアー楽しかったです。ありがとうございました。

沖繩県立博物館・美術館を見学して-2

1年6組3番 天久夏菜

今回授業を通して、無料で数々の素晴らしい作品や、普段では見られない美術館・博物館のバックヤードを見て、心の底から嬉しかったです。普段は展示会が閉められていたのをみて、少し興味があつてこの見学行かたのでありますが、今回の見学が積極的に見に行きたいと思えるきっかけになったと思います。印象深かったところたくさんあります。

バックヤードでは絵画の修復の現場を見れて、修復方法について学びました。最近の海の展示会ではとても自分が好きだと思える作品がたくさんあり、圧倒されるような彫刻を見て感動しました。防衛の海では台湾の作品などの作品を初めて見たのですが、圧倒されるような彫刻を見て感動しました。色々と勉強になることがたくさんあり外国の美術館にも触れてみたいと思いました。このような勉強させてくれる機会を設けてくれた学校の先生と美術館博物館の学芸員さんの方々に感謝です。ありがとうございました。

1年6組4番 狩野裕香

今回授業で見学させていただきありがとうございました。普段ならスタッフさんしか入れないバックヤードを見て、展示されている作品がどのように運ばれ、どのように保存、修復されるのか勉強になりました。その後「瀬戸の海」、「防衛の海」を見学して素晴らしい絵画や彫刻、模型がたくさんあり、山崎さん、保坂さんさん、平良様さん、喜舎場盛也さん、中澤弘光さん、喜久村理明さんなどの作品を見て今度調べてみたいと興味が湧きました。普段はあまり美術館には来ないので今回の授業で見られてとても素敵な作品が見られて良かったです。ありがとうございました。

1年6組19番 桑江佳季

一番印象的だったのは、バックヤードツアーです。県外、海外から来るたくさんの作品を丁寧に大切に扱っている美術館の方々の姿を見て、それぞれが気持ち良かった作品を保存して伝えていく仕事は大変なことだと感じました。いろいろな興味が湧きました。展示の見学では、こんな作品を指したいと思うような刺激を受けた作品がたくさんありました。中澤弘光さんの「梁井のほとり」や金塚隆雄さんの「Cereal シリウス」など、絵画、立体物、写真など様々な作品を見学しました。自分は何が好きなのか、何を目標とするのかなど、作品を通して自分を見つめる良い機会になったので良かったです。ありがとうございました。

1年6組22番 坂上陸

瀬戸の海と防衛の海は展示された様々な作家さんの作品が展示してあって非常に良い刺激を受けることができました。中でも、瀬戸の海で展示していた平良優季さんの「黒い」は最も印象に残っています。自分が描きたい世界観に最も近い作品で、参考にする点多くありました。

また、バックヤードの見学では美術館の普段見ることができない裏側を見学することができたので貴重な体験ができました。大変な作業をしている方、大抵の作品が閉まっていることで普段の気ななと異なる姿を見せている作品に非常に多くの方が関わっているのだということを改めて実感し、それと同時に作品に関わる全ての人の感謝しなれたのではないかと思います。

アートミュージアムキッズクラブ

本年度2期目の「アートミュージアムキッズクラブ」は小学校3年生から中学校2年生の11名が集まり、美術を楽しむ力、より身近に感じる心を育むことを目標に、1年をかけて全10回のプログラムに取組んだ。参加者の年齢の幅が広がったことでお互いが刺激し合う場面も見られ、学校では体験できないコミュニケーションが生まれた。今年度は、昨年リクエストの多かった陶芸や染め物にも挑戦した。

回	期 日	曜日	プログラム	講師
1	5月21日	日	説明会・バックヤードツアー	教育普及担当
2	6月17日	土	アートミュージアムキッズクラブTシャツ作り	真喜志康一氏
3	7月15日	土	自分だけの焼き物（やちむん）一日目	金城安正氏
4	7月16日	日	自分だけの焼き物（やちむん）二日目	〃
5	9月16日	土	フィンガーペイント	教育普及担当
6	10月14日	土	“あい”を染めよう！藍染めワークショップ	江谷紋子氏
7	11月18日	土	沖縄の金細工でお守りをつくろう 錫細工ワークショップ	上原俊展氏
8	12月16日	土	ドローイングマシンをつくろう！	植田瑞生
9	1月20日	土	墨に遊ぶ・アダンの筆で書画体験！	伊江隆人氏
10	2月17日	土	修了作品展を自分たちで準備！	教育普及担当

参加者の声

- ・自分が知らない事を知れるのがうれしかった。
- ・自分で作った道具で描いたり、想像していなかった作業をするのがドキドキ、ワクワクして楽しかった。
- ・自分の考えで作品作りができて、楽しくて勉強にもなった。
- ・学校ではできない色んな経験ができ、美術について学べてよかった。
- ・みんなで一つの作品を作ってみたかった。

挑戦してみたいこと

- ・油絵 / 写真 / 伝統芸能・武術 / トリックアート / 名刺作り / 彫刻 / 身体表現 / 貝を使ったランプ作り

保護者の声

- ・子ども達がアートに触れながら頑張る姿を見る事ができ、とても有意義でした。
- ・初めて会う子ども達と一緒に活動をして、色々なことを学び、体験も出来て良かったです。
- ・テーマを考え制作し発表する事でとても成長出来ました。子ども達の自信にも繋がったと思います。
- ・連休や秋休みなどは避けてもらえると参加し易いです。



アートコンクール

今年度、美術館は開館 10 周年の事業の一つとして児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指した。第 1 回目のテーマは 10 周年特別記念展覧会と同じ「海」。「あなたにとっての海とは・・・」で募集した。沖縄造形連盟と美術館班職員が審査に携わり、535 作品の中から特に色彩豊かで独創性に優れた作品が入賞に選ばれ、11 月 3 日に表彰式を挙行了。当日は、離島からも入賞者のご家族が列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

展示期間 2017/11/2 ～ 11/12

平成 29 年度 沖縄県立博物館・美術館企画 第 1 回アートコンクール 入賞者

賞	小学校の部		中学校の部		高校の部		特別支援の部			
最優秀賞	なかにしなつ は ◎仲 西夏 葉 アミックス小 3 年		つ は あい か ◎津波 愛 香 那覇市立松城中 2 年		せいもり あ や ◎生 盛 愛 彩 県立開邦高校 2 年		はなしろかな ◎花城可奈 県立森川特別支援中学部 3 年			
	もともり み うみ ◎本盛 美 海 竹富町立大原小 6 年 あ し とみひろ と ◎安 次 富 寛 心 北中城村立島袋小 6 年		き ゆ う な こ はる ◎喜 友 名 小 晴 沖縄市立山内中 3 年 か め か あ い ◎亀川 亜 依 那覇市立小禄中 1 年		すなわ ま お ◎砂川 真生 県立開邦高校 2 年 み や ぎ ら い な ◎宮城梨七 県立南部農林高校 3 年		ひ が も え み ◎比嘉 萌珠 県立沖縄ろう学校中学部 3 年 な か じ ょ う ゆ い ◎仲門結 衣 県立沖縄ろう学校中学部 3 年			
優秀賞	もともりかいり ◎本盛海吏 竹富町立大原小 2 年 き きたはん な ◎崎田 帆 夏 石垣市立平真小 1 年 こばやしゆう き ◎小林 祐 貴 石垣市立平真小 2 年 あ け だ そ な ◎阿 慶 田 空 南 伊江村立伊江小 6 年		とくむらこなつ ◎徳村呼 夏 那覇市立上山中 3 年 うんてん い おり ◎運天 意 識 浦添市立神森中 3 年 ひ ら た ひ で か ◎平田 愛 華 沖縄市立山内中 3 年		うんてんかいり ◎運天海莉 県立開邦高校 1 年 ひ が れ お な ◎比嘉 鈴音 南 県立那覇高校 2 年 み や さ と ゆ う へ い ◎宮里 悠 平 つくば開成国際高校		やまもとゆう み ◎山本 佑 妙 糸満市立糸満南小 6 年 に し め ゆ う が ◎西銘 勇 河 県立森川特別支援高等部 2 年 い と う り ん ◎伊東凜 豊見城市立ゆたか小 6 年			
	佳 作		9 名		18 名		8 名		3 名	
優秀 団体賞	豊見城市立		石垣市立		名護市立		沖縄県立		沖縄県立	
	ゆたか小学校		平真小学校		屋部中学校		球陽中学校		前原高校	



表彰の様子



花城可奈（最優秀賞）

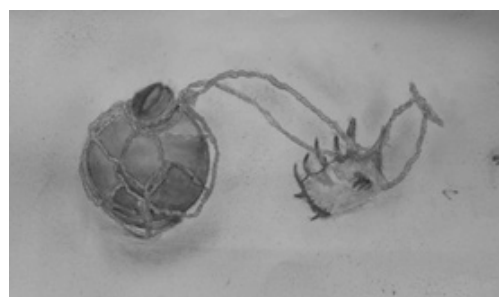


生盛愛彩（最優秀賞）

夏休み子どもフェスタ

毎年恒例となっている夏休みこどもフェスタがNPO法人美術館支援会 happ との共催で8月5日（土）・6日（日）の2日間実施された。台風の接近のため残念ながら中止となったワークショップもあったが、子どもから大人まで幅広い層の参加があり、楽しむ姿が伺えた。各種実技指導を通して、子どもたちに造形的な技能及び表現力を身につけさせ、子どもたちと美術館との関わりを深めることが出来た。

日程	午前		午後
	9:30～10:00 ① 10:30～11:00 ②	9:00～12:00	13:00～16:00
8/5 (土)	(1) 中庭が水族館 講師：教育普及 場所：中庭 (雨天時は中止) ★台風のため中止	(2) 写生大会 講師：沖縄県美術家連盟 場所：当館周辺 (雨天時は中止) ★台風のため中止	(3) 似顔絵教室 講師：又吉浩・小松橋人 県芸大学生 場所：こどもアトリエ ★happ 事業
8/5 (土)	10:00～15:00（お昼休み1時間あり）		
	(4) 動く海のアニメーション 講師：松本力 場所：県民ギャラリースタジオ 協力：美術館ボランティア		
8/6 (日)	10:00～15:00（お昼休み1時間あり）		
	(5) 水中美術館 場所：3階講堂前ホワイエ 担当：教育普及		
	10:00～15:00	9:00～12:00	
8/6 (日)	(6) 海をデッサンしよう 講師：豊里三智恵（画家） 場所：子どもアトリエ	(7) 美術館にねんどのキノコを植えよう 講師：仲本賢・小橋浩（県立芸大教授） 場所：博物館実習室 ★happ 事業	



活動写真



〈海の生き物たちを思い思いに制作〉



〈講師に教わりながら海の生き物をデッサン〉



〈デッサンした作品を様々な技法で着色〉



〈みんなで絵を繋いでいろいろな生き物に変身〉



〈親子で一緒に似顔絵描き〉



〈繋いだ絵を撮影してアニメーションに〉

移動展 in 北大東島

移動展とは、日常的に足を運ぶことが難しい離島の方々へ博物館資料や美術作品を公開する機会を提供する趣旨から、毎年開催している。今回は、北大東島で3日間に渡り開催した。

今回の移動展では作家によるワークショップと H28 年度に美術館が作成した「沖縄アート遊具」の紹介と美術館所蔵の 16 mm フィルム映像作品をデジタル化した映画を開催期間中上映した。主会場となった北大東村人材交流センター・民俗資料館には、北大東島のみならず、近隣の離島より、多くの来館者が集まった。また、染織家の江谷紋子氏を講師に迎え、地域の特産品である「月桃」の根を使って絹を染めるワークショップが好評を博した。

来場者数 北大東村人材交流センター・民俗資料館 328 人

○ 23 日 (金) / 121 人 (70 歳以上 1 人、一般 80 人、高大 0 人、小中 13 人、未就学児 27 人)

○ 24 日 (土) / 92 人 (70 歳以上 5 人、一般 39 人、高大 0 人、小中 24 人、未就学児 24 人)

○ 25 日 (日) / 115 人 (70 歳以上 6 人、一般 51 人、高大 1 人、小中 35 人、未就学児 22 人)



オープニングセレモニー



北大東幼稚園児 遊具体験・読み聞かせ



ワークショップ準備



ワークショップの様子



アウトリーチ

今年度、美術館では北大東島でアウトリーチを実施した。

「月桃の根で染めてみよう！」は、染織家の江谷紋子氏を講師に北大東島の特産品である「月桃」の根を使って布を染めるワークショップを行った。完成をイメージしながらビー玉やおはじき、安全ピン、輪ゴムなどで布を絞りオリジナル模様に染め上げた。



月桃の根



根を刻んで煮詰める 3～4 時間



布絞り染めの準備



布を釜に入れ 30 分待つ



洗いおとしてゴム外し



完成品

参加者の感想

げっとうの根が、染め物
に使えるなんて、はじめて知
りました。自由研究でもできる
ので、いいなと思いました。
じゃがいもやかぼちゃでも
できるか ためしたいです。



「子どもを対象としたハンズオン遊具」の開発

平成 28 年度に魅力アップ事業の一つとして開発を行った「子どもを対象としたハンズオン遊具（名称：おきなわアート遊具）」が昨年度末に完成し、今年度公開した。

美術館の課題の一つである若年層、特に 3～6 歳程度の未就学児を主な対象として、館で所蔵している作品をモチーフにしたロボットの組み立て式ぬいぐるみや、立体パズル、ちんすこうなど沖縄のお菓子を使ったぬいぐるみ、木や陶器を使った、さわって遊べる 12 種類の遊具を制作した。むずかしい操作などなく、さわりながら、並べたり、組立てたり、それをこわして、また組み立てたり、直感的に自分たちで発想して遊べる遊具とした。

公開時は、特に幼児から幼稚園児くらいの未就学の子どもたちに人気があり、また、子どもがお父さんやお母さんと一緒に考えながらパズルに挑戦したりなど、親子連れでも楽しむ姿があった。

1. 平成 29 年度の主な公開

回	期 日	関連した催事	場 所	人数(延べ)
1	8/5(土)～6(日)	夏休みこどもフェスタ	エントランス	未集計
2	10/21(土)～22(日)	こどもフェスタ秋 ～体験キットで遊ぼう	エントランス	1227
3	2/17(土)	旧盆イベント	博物館講座室	未集計
4	2/23(金)～25(日)	第 10 回 移動展 in 北大東島	エントランス	127



「沖縄アート遊具」解説ブックより



「こどもフェスタ秋～体験キットで遊ぼう」より



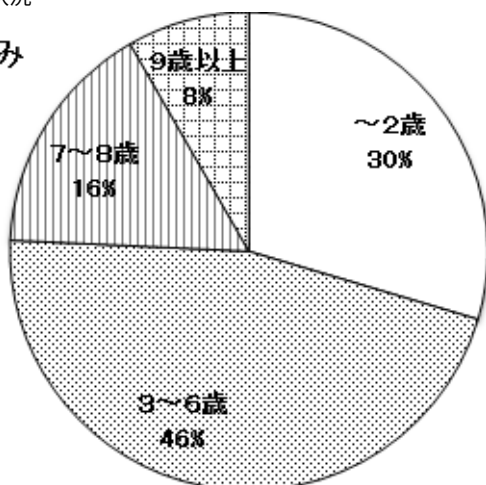
第 10 回 移動展 in 北大東島より

2. 使用状況の調査 於：こどもフェスタ秋～体験キットで遊ぼう 10月21日（土）～22日（日）

遊具の種類	～2歳	3～6歳	7～8歳	9歳以上	外国のこども
おかしぐるみ	50	78	27	14	2
たてよこぶろっく	31	55	15	1	0
もくもくつくり！	21	42	20	4	0
おっともたち	10	20	7	0	0
ろぼぐるみ	17	44	12	6	0
くるくるかわら	9	26	44	11	5
おどってぐ～るぐる	17	67	24	9	3
とうきぐ～るぐる	2	17	8	10	0
きれいびんがた	11	16	10	7	1
どっきりおくち	5	37	23	15	4
おもしろばずる	9	34	18	14	3
さわるアート	69	152	74	60	4

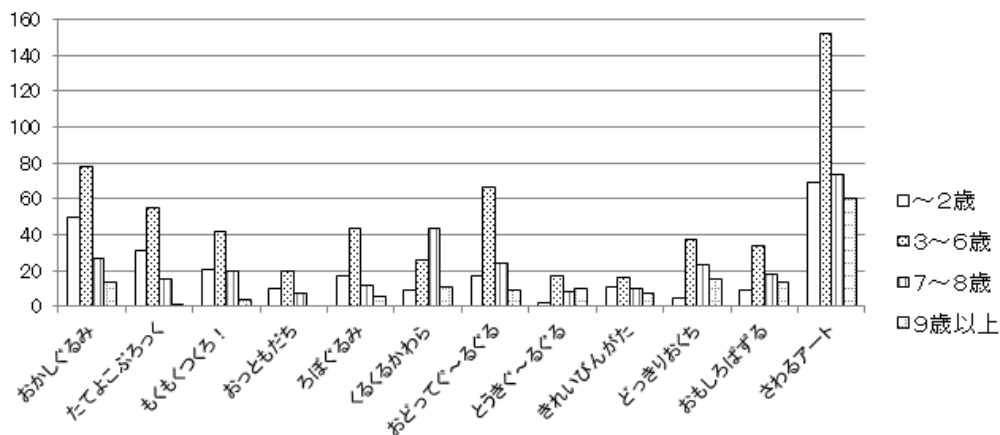
□年齢別使用状況

おかしぐるみ



- ・開発のねらいとしていた、就学前の幼児が遊具で遊んだ約半数を、3歳未満と思われる子どもと併せて4分の3程を占めた。
- ・3歳未満の子どもは親子で遊んでいるパターンが多く見られた。
- ・遊具の上に乗ったり、寝転がったりと、違う遊具同志を組み合わせたりなど当初想定していた以外の使い方も多く見られた。

□遊具別・年齢別使用人数



「私たちの学校へ沖縄の名画を贈ろう！キャンペーン」への協力

縄明治乳業株式会社が取り組む「私たちの学校へ世界の名画・沖縄の名画を贈ろう！キャンペーン」において、高精細レプリカ作成のために美術館所蔵作品の画像を無償で提供する協力を平成26年度より行っている。3年目となる今年度は、新規に稲嶺成祚作《太陽のある家族》を加えた11作品の画像提供を行い、8校より8作品の応募があった。

(平成30年2月28日現在)



作品の検品を行う（大嶺政寛「八重風景」）。



検品後に日付と館名を署名する。

学校名	応募作品名	作家名
宜野湾市立長田小学校	白地紅型を着る	名渡山愛順
浦添市立浦西中学校	太陽のある家族	稲嶺成祚
那覇市立さつき小学校	太陽のある家族	稲嶺成祚
沖縄県立鏡が丘特別支援学校	八重山風景	大嶺政寛
豊見城市立豊見城小学校	太陽のある家族	稲嶺成祚
浦添市立内間小学校	太陽のある家族	稲嶺成祚
伊平屋村立伊平屋小学校	太陽のある家族	稲嶺成祚
那覇市立金城小学校	青い空	安次嶺金正

学生提案型企画 協力 アートでひろがる子どものせかい

この学生提案型企画は、一般財団法人大学コンソーシアム沖縄子どもの居場所ボランティアセンターが主催するもので、学生が子どもの貧困問題の解決に寄与することを目的に企画提案し、美術館やボランティアセンターがサポートし実施した。バックヤード・鑑賞・ワークショップを体験した。



回	期 日	内 容	提案者
1	10/14(土)	趣旨説明	沖縄女子短期大学
2	10/30(月)	内容検討・講師紹介・日時・場所予約	浦崎日菜
3	12/11(月)	ワークショップ内容確認	沖縄女子短期大学
4	12/19(火)	沖縄女子短大にてプレワークショップ	楠林美来
5	1/22(月)	当日の最終打合せ	沖縄国際大学
6	1/28(日)	バックヤード・展示鑑賞・ワークショップ	呉屋奈菜子
7	3/3(土)	学生企画発表（沖縄国際大学）	児童生徒 15 名
8	3/6～3/11	展示・展示会・撤収	施設職員 3 名



「写真家が見つめた沖縄 1972-2017」

沖縄本土復帰 45 年特別展 コレクションギャラリー 1

会期：平成 29 年 4 月 25 日（火）～平成 29 年 5 月 21 日（日）

本展覧会は、沖縄本土復帰 45 年特別展として、沖縄県立博物館・美術館と NHK 沖縄放送局が共催で行った。展覧会ディレクターは、第 40 回木村伊兵衛写真賞を受賞した石川竜一氏が務めた。コレクションギャラリー 1 では、平敷兼七や山田實ら 1972 年の復帰前から沖縄を撮り続けた写真家や、東松照明や森山大道ら沖縄ゆかりの写真家を中心に県民ギャラリーでは、石川竜一本人を含め、タイラジュンや伊波リンダら若手写真家の作品約 150 点の展示を行い、本土復帰から現在に至る沖縄の姿を展観した。（島筒 格）



2017.4.25-5.21 沖縄県立博物館・美術館
NHK 沖縄放送局 共催

【展示写真家】

コレクションギャラリー 1

石内都、石川直樹、石川真生、伊志嶺隆、大城弘明、白岡順、染谷學、平良孝七、津野力男、東松照明、檜葉朝子、野村恵子、荻原義弘、比嘉康雄、比嘉良治、平敷兼七、蒔田恵理、水島源光、港千尋、森山大道、山田實、勇崎哲史

県民ギャラリー 1・2・3

新垣一也、石川竜一、伊波一志、伊波リンダ、氏家聡、亀山亮、タイラジュン、豊里友行、中川大祐、長崎健一、七海愛、初沢亜利、松本太郎、宮里秀和

□高校生とつくる「2017 沖縄」写真展

【期 間】平成 29 年 4 月 25 日（火）～平成 29 年 5 月 21 日（日）

【会 場】県民ギャラリー・ロビー

【参加者】20 人（県内高校生）※ワークショップの後、作品を展示

□シンポジウム

【日 時】平成 29 年 4 月 29 日（土）14:00～17:00

【内 容】第 1 部：石川竜一氏と若手写真家が展示作品について語った。

第 2 部：写真を沖縄の文化として育てていくにはどうすればよいか

【会 場】講堂

【参加者】100 人

□写真家が見つめた沖縄—特別展関連 銘苅小学校鑑賞ツアー

【日 時】平成 29 年 5 月 15 日（月）9:00～12:00

【対 応】美術館鑑賞ボランティア

【会 場】博物館・美術館常設展

□関連番組の放送

【番組名】沖縄金曜クルーズきんくる「写真家が見つめた沖縄復帰 45 年」（NHK 沖縄放送局）

【日 時】平成 29 年 4 月 28 日（金）19:30

【出 演】石川竜一



[安次富長昭展―光・風・土への憧憬―]

開館10周年特別企画・ニューコレクションシリーズ3

会期：平成29年4月25日（火）～平成29年10月15日（日）

コレクションギャラリー2. ホワイエ

本展覧会は、開館10周年記念及びニューコレクションシリーズ第3弾として開催した。安次富氏は、ニシムイの画家と活動を共にし、第9回五人展への参加、安次嶺金正らと創斗会を結成し沖縄の前衛的な絵画をリードした画家である。また、絵画のみならず琉球大学創立記念切手や海洋博記念メダルなどを手がけたデザイナーとしても多くの功績がある。卒業制作の《少女》から代表作の《きびを食う男》や2000年代制作の作品まで、同氏の変遷が分かる構成となっており、絵画やデザインの精華を紹介した。

（富原圭子）

第1章 学生時代の活動から創斗展開催まで

第2章 創斗展以降から1968年までの活動

第3章 沖縄の色と形、1969年以降の絵画



□安次富長昭展―オープニング・ギャラリートーク

【日 時】平成29年4月25日（火）9:30～12:00

【講 師】安次富隆（多摩美術大学教授）

【会 場】アトリウム・コレクションギャラリー2

【参加者】56人

□安次富長昭展―鑑賞ツアー

【日 時】平成29年5月27日（土）14:00～15:00

【内 容】鑑賞ボランティア対応による対話型鑑賞ツアー

【対 応】美術館鑑賞ボランティア

【会 場】美術館コレクションギャラリー【参加者】6人

□安次富長昭展―ワークショップ

【日 時】平成29年6月3日（土）10:00～13:00

【講 師】永津禎三（琉球大学教育学部教授）

【内 容】彫り進み版画 3名1組でのリレー版画

【対 象】小学生4年～6年（親子同伴）

【会 場】県民・子どもアトリエ 【参加者】15人

□安次富長昭展―開催記念講演会―シンポジウム

【日 時】平成29年7月8日（土）14:00～16:00

【講 師】安次富隆（多摩美術大学教授）

石垣博孝（画家・民俗学者）

金城博之（think of デザイナー）

【内 容】1部 開催記念講演会「安次富長昭の画業と周辺」

2部 シンポジウム「安次富長昭と沖縄」

【会 場】講堂 【参加者】36人



[沖縄美術の流れ・前期]

会期：平成 29 年 4 月 25 日（火）～平成 29 年 10 月 15 日（日）

[沖縄美術の流れ・後期]

会期：平成 30 年 2 月 23 日（金）～平成 30 年 6 月 24 日（日）

コレクションギャラリー3

亜熱帯の気候と独自の文化を築いてきた沖縄。

歴史においては様々な状況に翻弄されながら現在の沖縄が存在する。

本展覧会では、戦前戦後の美術品をたどりながらその変遷を紹介する。美術家たちがその時代をどのようにとらえ、表現したのか。県内外、海外で活躍する沖縄出身者による作品も併せて公開する。

（梶原正史）



□沖縄美術の流れー オープニング

【日 時】平成 29 年 4 月 25 日（火）

【会 場】コレクションギャラリー3

□沖縄美術の流れー ギャラリートーク

＊第 3 回ボランティア研修会

【日 時】平成 29 年 5 月 25 日（木）10:00 ～ 12:00

【講 師】稲嶺成祚氏（画家、琉球大学名誉教授）

【会 場】県民スタジオ・コレクションギャラリー3

【参加者】18 人



□沖縄美術の流れー ギャラリートーク

【日 時】平成 29 年 6 月 18 日（土）14:00 ～ 15:30

【講 師】上原美智子氏（染織家）

【会 場】美術館講座室

【参加者】40 人



□沖縄美術の流れー キュレータートーク

【日 時】平成 29 年 7 月 22 日（土）14:00 ～ 15:30

【講 師】梶原正史（当館担当学芸）

【会 場】美術館講座室

【参加者】33 人



□ワークショップ《色の中で遊ぶ》

【日 時】平成 29 年 1 月 14 日（土）14:00 ～ 16:00

【講 師】上原成美氏（画家）

【会 場】美術館県民・こどもアトリエ

【参加者】12 人

〔ベトナム絵画展〕

コレクションギャラリー1

会期：平成29年7月6日（木）～平成29年10月15日（日）

沖縄と共通する風習も多く、文化的に身近な国であるベトナムの近代美術作品を紹介した。当館は、平成20年度に寄贈された作品群を核として、約250点のベトナム絵画を所蔵している。本展では版画、絹絵、漆絵など、ベトナム近代美術の特徴的な技法が用いられた作品を約30点展示した。

展示は2章に分け、1章は版画、2章は絹絵と漆絵を紹介した。版画作品は、伝統的な民衆版画であるドンホー版画に加え、ベトナム戦争時に制作された版画を併せて紹介した。第2章では作品を年代順に並べ、色彩や表現の変遷を見られるようにし、当館のアジア美術コレクションの中心となっているベトナム絵画の魅力を紹介した。（大城さゆり）



【展示構成】

第1章 民衆版画と戦争版画

第2章 絹絵と漆絵 ―ベトナムで独自に発展した絵画技法

□ベトナム絵画展― キュレータートーク

＊学校招聘事前学習会

【日 時】平成29年7月12日（水）10:00～12:00

【講 師】大城さゆり（美術館調査研究員）

【会 場】コレクションギャラリー1

【対 象】美術館鑑賞ボランティア

【参加者】10人



□ベトナム絵画展関― ギャラリートーク

＊「描かれたベトナム」―絵から読み解く歴史・文化

【日 時】平成29年7月30日（土）14:00～15:30

【講 師】那須泉（うちなあじあ研究所代表）

【会 場】美術館講座室・コレクションギャラリー1

【参加者】40人



□ベトナム絵画展― 学芸員講座

【日 時】平成29年7月30日（土）14:00～15:30

【内 容】展示作品よりベトナムの歴史、文化について読み解く

【講 師】大城さゆり（美術館調査研究員）

【会 場】美術館講座室・コレクションギャラリー1

【参加者】40人



[今帰仁城盛衰記—知られざる金城安太郎の仕事—]

会期：平成 29 年 5 月 23 日（火）～平成 29 年 6 月 25 日（日）

コレクションギャラリー 1

本展覧会は、沖縄画壇ではやや少ない日本画家の一人、金城安太郎（1911-1999）が描いた《今帰仁城盛衰記》全 11 枚と関連する資料を紹介した。1970 年代初頭の沖縄は、本土復帰を目前に、沖縄国際海洋博覧会の準備が盛り上がりを見せる一方で、グスク群の発掘調査がすすみ、今帰仁城も 1972（昭和 47）年 5 月 15 日の本土復帰の日には「今帰仁城跡」として国の史跡に指定された。本作は、その文化財指定への関心も高まっていた 1973 年の作。半紙大ほどの和紙に、顔彩や墨で描かれた 11 枚は、テレビ番組用の原画で、まるで歴史画としての趣を感じさせるダイナミックで品格のある佳作である。今帰仁城跡の鳥瞰図や伝説、風習や行事の様子が緻密かつ生き生きと描かれており、安太郎の時代考証の確かさと成熟期の力量を示す作品である。

本展覧会では、ご遺族の多大なご協力の下で、画材やスケッチと、貴重な番組収録ビデオをご提供いただいた。安太郎の創作のプロセスを感じられる機会となった。（玉那覇英人）



□金城安太郎展— ギャラリートーク

＊《今帰仁城盛衰記》—知られざる金城安太郎の仕事—

【日 時】平成 29 年 6 月 11 日（日）14:00～15:30

【講 師】仲原弘哲（今帰仁村歴史文化センター元館長）

【会 場】美術講座室・コレクションギャラリー 1

【参加者】36 人

□金城安太郎展— 学芸員講座

＊「金城安太郎と《今帰仁城盛衰記》」

【日 時】平成 29 年 6 月 11 日（日）14:00～15:30

【講 師】玉那覇英人（展覧会担当学芸員）

【会 場】美術講座室・コレクションギャラリー 1

【参加者】36 人



[彷徨の海—旅する画家・南風原朝光と台湾・沖縄]

開館 10 周年特別企画

会期：平成 29 年 11 月 1 日（水）～平成 30 年 2 月 4 日（日）

コレクションギャラリー 1. 2. 3. ホワイエ

開館十周年記念展「彷徨の海—旅する画家・南風原朝光と台湾・沖縄」は、沖縄出身の画家、南風原朝光（はえばる・ちょうこう 1904—1961）の油彩画 53 点を中心に、台湾と沖縄との歴史的な関わりを振り返る企画展である。南風原を含めて、37 名の作家と 178 点の絵画、書、映画と写真とを、戦前から現代まで三章に分けて紹介した。

静物画を得意とし、白日会や国画会に所属したことで知られる南風原は、1920 年代から東京に制作拠点を置いた。東京都豊島区の一帯、通称・池袋モンパルナスに集う芸術家たちと親交を深めるなか、1938 年には藤田嗣治や加治屋隆二、竹谷富士夫らを沖縄へ案内した。東京時代に制作した、南風原の主な作品には、紀元二六〇〇年奉祝展へ入選した《野菜と果物》（1940 年）や《サモアールのある静物》（1948 年）などがある。

この展覧会の見どころは、旅する画家・南風原朝光が描いた未発表の絵画を含む作品と、台湾で有名な陳澄波の、東京美術学校図画師範科で学んだ時代の作品 5 点が見られる第一章であった。陳の作品がまとまって見られるのは、日本でも初めてのように思う。1895 年から 45 年までの台湾は、沖縄や日本の人々が移住し、日本語での教育が行われていた。その時代、東京を中心とした美術の趣向があったことを、あらためてうかがい知ることができた。台湾美術院の会員による特別出品にも恵まれ、近現代の沖縄や台湾の美術をまとめて鑑賞できる画期的な展覧会となった。（豊見山愛）



□彷徨の海展—開館 10 周年記念展関連 —

オープニング・アーティストトーク

【日 時】平成 29 年 11 月 1 日（水）10:30～12:00

【講 師】廖修平氏（台湾美術院院長）

鐘有輝氏（台湾美術院事務局長）

喜久村徳男氏（画家 / 沖縄美術連盟顧問）

大浜英治氏（画家 / 沖縄美術家連盟理事）

コーディネーター：豊見山愛（展示担当学芸員）

【会 場】コレクションギャラリー 1・2・3

【参加者】43 人



□彷徨の海展—開館 10 周年記念展関連 — 「のこす」

映像アーカイブと沖縄①特別上映



デジタル化した「執念の毒蛇」「吉屋チルー物語」上映

【日 時】平成 29 年 11 月 4 日（土）13:30～18:00

【内 容】無声映画「執念の毒蛇」（弁士・楽士による生演奏あり）

【講 師】高宮城実人氏（弁士） 楽士 3 人

【会 場】講堂 【参加者】143 人



□彷徨の海展－開館 10 周年記念展関連 －「のこす」

映像アーカイブと沖縄②特別上映

【日 時】平成 29 年 12 月 2 日（土）10:30～11:30

【内 容】弁士・楽士入り映画「執念の毒蛇」上映
ハワイ移民の文化、沖縄映画史、映画の
復と保存について

【講 師】真喜屋力氏（シネマ沖縄プロデューサー）
仲程昌徳氏（元琉球大学教授）
世良利和氏（映画研究家）

【会 場】講堂 【参加者】200 人以上



□開館 10 周年記念展「彷徨の海」「邂逅の海」関連

*「日曜日の散歩者」上映会＋トークショー

【日 時】平成 30 年 1 月 13 日（土）13:30～17:00

【講 師】真喜屋力氏（シネマ沖縄プロデューサー）
コーディネーター：豊見山愛（展覧会担当学芸員）

【会 場】講堂 【参加者】67 人



□開館 10 周年記念展関連「彷徨の海」「邂逅の海」

* 1 部シンポジウム 「つなぐ」海と交流

【日 時】平成 30 年 2 月 3 日（土）13:30～

【講 師】廖新田（國立臺灣藝術大學藝術管理與文化政策研究專長）

基調講演「台湾の発見：台湾の芸術発見と日本」

【講 師】豊見山愛（当館学芸員）

講演「南風原朝光を通して見た台湾、東京、沖縄」

【会 場】講堂 【参加者】75 人

* 2 部トークディスカッション

「みせる」展示で何を伝えてきたのか

－美術館前史と美術館－

【講 師】翁長直樹（美術評論家 / 元美術館副館長）

前田比呂也（上山中学校校長 / 前美術館副館長）

コーディネーター：池原盛浩（美術館副館長）

【会 場】講堂 【参加者】75 人



「邂逅の海―交差するリアリズム」

開館 10 周年特別企画

会期：平成 29 年 12 月 19 日（火）～平成 30 年 2 月 4 日（日）

企画ギャラリー 1.2. アトリウム

本展覧会では、現在をみすえ今後の美術館の在りようを考える展覧会として、沖縄で活動する作家や、沖縄を制作の舞台とした作家、さらに台湾などで活動する作家など、19 人と 1 組の活動を紹介した。多種多様な表現によって、新たな価値観を模索しながら、これからの沖縄の美術の方向性について考えた。

展示は、大きく 3 つの部分で構成した。第 1 章では、「表現のフレームを押し広げるアーティスト①」として、素材を通して表現方法を模索したアーティストを紹介。第 2 章では「言葉―美術などのジャンルを超えた表現の多様性」として、沖縄を拠点に活動するアーティストやキュレーター、研究者などが、作品を発表できるよう立ち上げられた雑誌『las barcas』のメンバーによる空間展示。第 3 章では「表現のフレームを押し広げるアーティスト②」として、映像やインスタレーションを通して、沖縄や台湾の現実に応答する作品を紹介した。

（玉那覇英人）

□開館 10 周年記念展「邂逅の海」関連

アーティストトーク

【日 時】平成 30 年 1 月 20 日（土）14:00 ～ 15:30

【講 師】山城えりか・平良優樹・金城徹・水谷篤志
夏愛華

【担 当】玉那覇英人（展覧会担当学芸員）

コーディネーター：大城さゆり（調査研究員）

【会 場】企画展示室

【参加者】40 人



□開館 10 周年記念展「邂逅の海」関連

ギャラリートーク（lasbarcas）

【日 時】平成 30 年 2 月 4 日（日）14:00 ～ 15:30

【講 師】山城知佳子氏・根間智子氏
阪田清子氏・親川智氏

コーディネーター：町田恵美氏・岡田有美子氏

【会 場】企画展示室 【参加者】57 人



平成 29 年度美術館事業統計報告

教育普及事業

1. シンポジウム・講演会・上映会

回	月 日	曜日	シンポジウム・講演会	見学者
1	7 月 8 日	土	開館 10 周年特別企画「安次富長昭展—光・風・土への憧憬—」 開催記念講演会「安次富長昭の画業と周辺」 シンポジウム「安次富長昭と沖縄」 講師：安次富隆（多摩美術大学教授） 石垣博孝（画家・民俗学者） 金城博之（think of デザイナー）	35
2	10 月 13 日	金	開館 10 周年記念展 プレイベント 保存修復シンポジウム「まもる」アートをアーカイブせよ！ 亜熱帯地域の美術館による修復と保存 講師：張元鳳（台湾師範大学文化財保存修復センター教授） Ioseba Soralue （台湾・正修科技大学保存修復センター絵画部門チーフ）	31
3	11 月 4 日	土	開館 10 周年記念展「彷徨の海」関連催事 「のこす」 映像アーカイブと沖縄①特別上映 デジタル化した「執念の毒蛇」「吉屋チルー物語」上映 内容：無声映画「執念の毒蛇」→弁士・楽士による生演奏 講師：高宮城実人氏（弁士） 楽士 3 人	142
4	12 月 2 日	土	開館 10 周年記念展「彷徨の海」関連催事 「のこす」 映像アーカイブと沖縄②トークショー 内容：弁士・楽士入り映画「執念の毒蛇」上映 ハワイ移民の文化、沖縄映画史、映画の修復と保存について 講師：真喜屋力氏（シネマ沖縄プロデューサー） 仲程昌徳氏（元琉球大学教授） 世良利和氏（映画研究家）	200
5	1 月 13 日	日	開館 10 周年記念展「彷徨の海」「邂逅の海」催事 「日曜日の散歩者」上映会＋トークショー 講師：真喜屋力氏 コーディネーター：豊見山愛（当館学芸員）	67
6	2 月 3 日	土	開館 10 周年記念展「彷徨の海」「邂逅の海」催事「つなぐ」 第 1 部 シンポジウム 海と交流——沖縄をめぐる美術海洋史・調査と収集の実際 基調講演「台湾の発見：台湾の芸術発見と日本」 講師：廖新田（國立臺灣藝術大學藝術管理與文化政策研究専長） 基調講演「南風原朝光を通して見た台湾、東京、沖縄」 講師：豊見山愛（当館学芸員） 第 2 部 パネルディスカッション 「みせる」展示で何を伝えてきたのか パネリスト 翁長直樹（美術評論家 / 元美術館副館長） 前田比呂也（上山中学校校長 / 前美術館副館長） コーディネーター：池原 盛浩（美術館副館長）	75

2. キュレーター・トーク（展示会担当学芸員による作品・作家解説）

回	月 日	曜日	展示会名	担 当	参加者
1	4 月 23 日	日	企画展関連催事 「山元恵一展－まなざしのシュルレアリスム－」	豊見山愛	40
2	7 月 22 日	土	沖縄美術の流れ 関連催事 修復方針・作業の進め方解説→展示解説	梶原正史	33
3	7 月 30 日	土	ベトナム絵画展関連催事 「描かれたベトナム」－絵から読み解く歴史・文化	大城さゆり	40

3. アーティスト（ギャラリー）・トーク（展示作品制作者又は関係者による作品解説 14:00～15:30）

回	月 日	曜日	シンポジウム・講演会	講 師	参加者
1	4 月 23 日	日	企画展「山元恵一展－まなざしのシュルレアリスム－」関連催事 ギャラリートーク 講師：弘中智子（板橋区立美術館学芸員）		40
2	4 月 25 日	火	コレクション展・ニューコレクションシリーズ3 関連催事 開館10周年特別企画「安次富長昭展－光・風・土への憧憬－」 オープニング・ギャラリートーク 講師：安次富隆（多摩美術大学教授）		56
3	5 月 29 日	日	企画展・沖縄本土復帰45年特別展関連催事 「写真家が見つめた沖縄－1972-2017－」 オープニング・ギャラリートーク 展覧会ディレクター：石川竜一（写真家）		45
4	6 月 11 日	日	H29年度 コレクション展 金城安太郎展関連催事 「《今帰仁城盛衰記》－知られざる金城安太郎の仕事－」 ギャラリートーク 講師：仲原弘哲（今帰仁村歴史文化センター元館長）		36
5	6 月 18 日	日	H29年度 コレクション展 沖縄美術の流れ関連催事 「上原美智子」ギャラリートーク 講師：上原美智子（染織家）		40
6	7 月 30 日	土	ベトナム絵画展関連催事 「描かれたベトナム」－絵から読み解く歴史・文化 講師：那須泉（うちなあじあ研究所代表）		40
7	9 月 23 日	土	コレクション展・ニューコレクションシリーズ3 関連催事 開館10周年特別企画「安次富長昭展－光・風・土への憧憬－」 ギャラリートーク 講師：仲里安広氏（美術家）		19
8	11 月 1 日	水	開館10周年記念展「彷徨の海」関連催事 オープニング・アーティストトーク 講師：廖修平氏（台湾美術院院長） 鐘有輝氏（台湾美術院事務局長） 喜久村徳男氏（画家／沖縄美術連盟顧問） 大浜英治氏（画家／沖縄美術家連盟理事）		43
9	1 月 20 日	土	開館10周年記念展「邂逅の海」関連催事 アーティストトーク 講師：山城えりか・平良優樹・金城徹・水谷篤志・夏愛華		60
10	2 月 4 日	日	開館10周年記念展「邂逅の海」関連催事 ギャラリートーク（lasbarcas） 講師：山城知佳子氏・根間智子氏・阪田清子氏・親川哲氏 コーディネーター：町田恵美氏・岡田有美子氏		60

4. ボランティア養成講座

(コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～) 対象：登録ボランティア員

回	月 日	曜日	講義内容	参加
1	4月26日	水	職員紹介・活動計画と事務手続き等説明会	19
2	5月10日	水	団体鑑賞プログラム説明、プログラム学習会	14
3	5月25日	水	作家 稲嶺成祚氏による講座「沖縄美術の流れ」	18
4	6月14日	水	那覇市歴史博物館 外間政明氏による文化財修復・展示解説	14
5	6月21日	水	那覇地区特別支援学級対応勉強会	7
6	7月12日	水	大城学芸員による展示解説会・8月外部講師来館前の勉強会	9
7	8月16日	水	外部講師 杉浦幸子氏による講座「美術館鑑賞」	20
8	9月13日	水	対話による鑑賞実践体験①	9
9	11月15日	水	「彷徨の海」展示解説会、対話による鑑賞実践体験②	11

5. 鑑賞ツアー・博美連携事業

(1) 企画展関連

沖縄本土復帰 45 年特別展 …………… 132 人参加

「写真家が見つめた沖縄 1972 - 2017」銘苅小学校

①日 時：平成 29 年 5 月 15 日（月）9:00～15:00

②内 容：鑑賞ボランティア対応による対話型鑑賞ツアー

③対 応：美術館鑑賞ボランティア

④場 所：美術館コレクションギャラリー / 県民ギャラリー / 博物館常設展

(2) コレクション展関連

開館 10 周年特別企画 ……………（一般）6 人参加

ニューコレクションシリーズ 3 「安次富長昭展」

①日 時：平成 29 年 5 月 27 日（土）14:00～15:00

②内 容：鑑賞ボランティア対応による対話型鑑賞ツアー

③対 応：美術館鑑賞ボランティア

④場 所：美術館コレクションギャラリー

(3) 博物館・美術館連携事業

慰霊の日特別企画 ……………（一般）6 人参加

「博物館・美術館で平和を考えるイベント」

①日 時：平成 29 年 6 月 23 日（金）10:00～10:50

②内 容：鑑賞ボランティア対応による対話型鑑賞ツアー

③対 応：美術館鑑賞ボランティア

④場 所：美術館コレクションギャラリー

(4) 博物館・美術館連携事業

「こどもフェスタ 2017 秋 体験キットで遊ぼう！」……………1227 人参加

「博物館・美術館で平和を考えるイベント」 1 日目 485 人 2 日目 742 人

①日 時：平成 29 年 10 月 21 日（土）・10 月 22 日（日）10:00～17:00

②内 容：鑑賞ボランティア対応による対話型鑑賞ツアー

③対 応：美術館教育普及班・美ら島財団教育普及班

④場 所：エントランス・博物館実習室

6. 学芸員講座

(1) 「金城安太郎と《今帰仁城盛衰記》」……………36 人参加

①日 時：平成 29 年 6 月 11 日（土）14:00～15:30

②内 容：知られざる金城安太郎の仕事としての全容を紹介

③講 師：玉那覇英人（展覧会担当学芸員）

④場 所：美術館講座室、コレクションギャラリー

(2) ベトナム絵画展関連「描かれたベトナム」……………40 人参加

ー絵から読み解く歴史・文化ー

- ①日 時：平成 29 年 7 月 30 日（土）14:00 ～ 15:30
- ②内 容：展示作品よりベトナムの歴史、文化について読み解く
- ③講 師：大城さゆり（調査研究員）
- ④場 所：美術館講座室

(3)「美術品の保存についてー保存修復の現場からー」……………12 人参加

- ①日 時：平成 29 年 9 月 9 日（土）14:00 ～ 15:30
- ②内 容：当館における保存・修復の現状の解説
- ③講 師：梶原正史（保存修復担当）
- ④場 所：美術館講座室

(4)「沖縄アート遊具」の開発について

- ①日 時：平成 30 年 2 月 17 日（土）14:00 ～ 15:30
- ②内 容：ハンズオンキット開発について
- ③講 師：島筒格（当館学芸員）
- ④場 所：美術館講座室・エントランス

7. ワークショップ

(1) コレクション展関連・ニューコレクションシリーズ 3……………20 人参加

開館 10 周年特別企画「安次富長昭展ー光・風・土への憧憬ー」関連催事「版画で話そう」

- ①日 時：平成 29 年 6 月 3 日（土）第 1 回 10:00 ～ 13:00
- ②内 容：彫り進み版画 3 名 1 組でのリレー版画
- ③講 師：永津禎三（琉球大学教育学部教授）
- ④対 象：小学生 4 年～6 年（親子同伴）
- ⑤会 場：県民・子どもアトリエ

(2) 美術館夏休み子供ワークショップ①「中庭が水族館」……………＊台風接近のため中止

- ①日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）第 1 回 9:30 ～ 10:00 第 2 回 10:30 ～ 11:00
- ②内 容：中庭の窓ガラスに好きな魚などを彩色して水族館にする
- ③講 師：保久村智恵（沖縄美ら島財団）
- ④対 象：小学生以下（親子同伴）
- ⑤会 場：美術館中庭

(3) 美術館夏休み子供ワークショップ②「写生大会」……………＊台風接近のため中止

- ①日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）9:00 ～ 12:00
- ②内 容：屋外展示場や周辺の公園の風景を講師の指導のもと水彩画を描く
- ③講 師：沖縄県美術家連盟
- ④対 象：小学 1 年～中学 3 年
- ⑤会 場：博物館・美術館周辺

(4) 美術館夏休み子供ワークショップ③「身近な人の似顔絵を描こう」……………39 人参加

- ①日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）13:00 ～ 16:00
- ②内 容：描き方のコツを教えてもらい、家族、友人と一緒に似顔絵を完成させる
- ③講 師：小松橋人氏（アニメーター）、琉球大学教育学部の大学生のみなさん
- ④対 象：小学校 1 年～中学校 3 年
- ⑤会 場：県民・こどもアトリエ

(5) 美術館夏休み子供ワークショップ④「動く動く海のアニメーション」……………62 人参加

- ①日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）・8 月 6 日（日）10:00 ～ 15:00
- ②内 容：海をテーマに各自がイラストを描き、参加者の絵を繋ぎ合わせて一つのアニメーションを完成させ、エントランスで上映する
- ③講 師：松本力氏（アニメーション作家）
下地慶子・前川ひろえ・福島弘子・金城章・肥前新菜・松尾康生（美術館ボランティア）
- ④対 象：未就学児～高校生
- ⑤会 場：県民スタジオ

(6) 美術館夏休み子供ワークショップ⑤「水中美術館」……………47 人参加

- ①日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土）13:00 ～ 15:00
8 月 6 日（日）10:00 ～ 12:00
- ②内 容：海の生物を画用紙に描き、3 階回廊のガラスに展示

- ③ 講 師：保久村智恵（沖縄美ら島財団）
松尾康生・前川ひろえ（美術館ボランティア）
④ 対 象：未就学児～大人
⑥ 会 場：3 階講堂前ホワイエ

(7) 美術館夏休み子供ワークショップ⑥「海をデッサンしよう」……………16 人参加

- ① 日 時：平成 29 年 8 月 6 日（日）10:00～15:00
② 内 容：海に関連するモチーフで木炭・鉛筆・コンテなどを使い、
本格的なデッサンに挑戦
③ 講 師：豊里三智恵氏（画家）
④ 対 象：小学校 3 年～中学校 3 年
⑥ 会 場：県民・子どもアトリエ

(8) 美術館夏休み子供ワークショップ⑦「美術館にねんどのキノコを植えよう」……………37 人参加

- ① 日 時：平成 29 年 8 月 6 日（日）9:00～12:00
② 内 容：自由に着色出来る粘土で色とりどりのキノコを作り、中庭に展示
③ 講 師：仲本賢氏（沖縄県立芸術大学）、沖縄県立芸術大学大学生のみなさん
④ 対 象：小学校 3 年～中学校 3 年
⑤ 会 場：博物館実習室

8. 職場体験……………18 人参加

- (1) キャリア教育の具体的理解として、生徒が職場で働くことを通じて、職業や仕事の実態について体験したり、
働く人々と接したりする学習。館内施設を見学し、博物館・美術館交互に業務体験。
① 対 象：本島域内中学校・高等学校
② 方 法：各学校の依頼受け入れ
③ 場 所：コレクション展示室・バックヤード・美術館資料室
④ 内 容：施設見学、美術館班資料整理、各業務体験

回	月 日	曜日	学校名	見学者
1	8 月 3 日	木	島添えの丘 真和志高校・那覇工業高校	3
2	8 月 30 日	水	那覇市立石田中学校（1 年）	3
3	9 月 12 日	火	沖縄工業高校（2 年）	4
4	10 月 3 日	火	那覇市立那覇中学校（1 年）	4
5	11 月 28 日	火	那覇市立金城中学校（1 年）	4

9. 鑑賞学習支援事業「美術館へ行こう」……………703 人参加

児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う

- ① 対 象：本島域内小中学校、特別支援学校等
② 方 法：公募により学校を選定
③ 場 所：コレクション展示室
④ 内 容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月 日	曜日	学校名	見学者
1	9 月 20 日	水	国頭村立安田小学校（1～6 年）	19
2	9 月 21 日	木	西原町立西原南小学校（6 年）	57
3	9 月 22 日	金	国頭村立奥間小学校（4、5 年）	35
4	9 月 26 日	火	豊見城市立座安小学校（6 年）	61
5	10 月 3 日	火	名護市立東江小学校（5 年）	110
6	10 月 4 日	水	読谷村立読谷小学校（6 年）	103
7	10 月 5 日	木	名護市立久辺小学校（5、6 年）	52
8	10 月 12 日	木	宜野湾市立普天間小学校（3 年）	105
9	12 月 6 日	水	沖縄市立中の町小学校（6 年）	65
10	12 月 7 日	木	糸満市立真壁小学校（5 年）	25
11	12 月 8 日	金	沖縄市立美里小学校（特別支援学級）	60

10. 美術館ミュージアムツアー

- ① 内 容：普段見ることのできない美術館の裏側とコレクションギャラリーを教育普及担当学芸員が案内する
 ②定 員：12名
 ③時 間：10:30～12:00

回	月 日	参加人数
1	5 月 27 日	9
2	7 月 29 日	12
3	8 月 27 日	11
4	11 月 3 日	6
5	1 月 27 日	10

*トラックヤード
 *企画準備室
 *エレベータ
 *一時保管庫
 *収蔵庫
 *工作室
 *展示室作品鑑賞

11. 「移動展 in 北大東」…………… 328 人入場

- ① 会 期：平成 30 年 2 月 23 日（金）・24 日（土）・25 日（日）（3 日間）
 ② 開催地：北大東島
 ③ 内 容：*映像作品の展示 …………… 映画鑑賞 参加 12 人
 「執念の毒蛇」「吉屋チルー物語」
 *幼稚園への遊具体験 …………… 遊具体験 参加 127 人
 *ワークショップの実施 …………… 参加者 参加 44 人
 「月桃の根で染めてみよう」講師：江谷紋子氏（染織家）

12. 研修対応

(1) 学芸員実習

- ① 期 間：平成 29 年 8 月 14 日（月）～8 月 25 日（金）10 日間（土、日を除く）
 ② 参加者：9 名（沖縄県立芸術大 6 名、崇城大学 1 名、九州産業大学 1 名、日本女子大学 1 名）
 ③ 内 容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館
 学芸員業務全般

回	月 日	内 容
1	8 月 14 日（月）	開講式・オリエンテーション
2	8 月 15 日（火）	*美術館業務の考え方と実際（池原班長）
3	8 月 16 日（水）	*教育普及事業Ⅰ・Ⅱ *教育普及演習（富原）
4	8 月 17 日（木）	*資料保存・修復の実際Ⅰ・Ⅱ *平面・の扱い（梶原）
5	8 月 18 日（金）	*企画展示の実際Ⅰ・Ⅱ（豊見山）
6	8 月 21 日（月）	*資料収集の概要（島筒）
7	8 月 22 日（火）	*調査・研究の概要*立体の取扱（玉那覇）
8	8 月 23 日（水）	*常設展示の実際Ⅰ・Ⅱ（大城・梶原）
9	8 月 24 日（木）	*資料調査実習（大城）
10	8 月 25 日（金）	共通課題発表・閉講式
	7 月 10 日（月）	班内分担提案
	7 月 18 日（火）	実習役割分担・要項送付
	7 月 26 日（水）	事務連絡発送
	9 月 6 日（水）	各学芸員評価入力 〆切 9 月 8 日（金）
	9 月 8 日（金）	評価まとめ→副館長へ
	9 月 15 日（金）	総合評価起案→決裁
	9 月 25 日（月）	日誌郵送（県芸大・崇城大・九産大・日本女子大）

1 3. 出前授業13 校
(美術館収蔵作品ティーチャーズキット・アートカード・美術館マナー・キャリア教育)

回	月日	学校名	回	月日	学校名
1	9 月 20 日	国頭村立安田小学校 (1 ～ 6 年)	8	10 月 12 日	宜野湾市立普天間小学校 (3 年)
2	9 月 21 日	西原町立西原南小学校 (6 年)	9	11 月 22 日	沖縄市立室川小学校 (5 年)
3	9 月 22 日	国頭村立奥間小学校 (4. 5 年)	10	12 月 6 日	沖縄市立中の町小学校 (6 年)
4	9 月 26 日	豊見城市立座安小学校 (6 年)	11	12 月 7 日	糸満市立真壁小学校 (5 年)
5	10 月 3 日	名護市立東江小学校 (5 年)	12	12 月 8 日	沖縄市立美里小学校(特別支援学級)
6	10 月 4 日	読谷村立読谷小学校 (6 年)	13	2 月 8 日	北中城村立島袋小学校 (4 年)
7	10 月 5 日	名護市立久辺小学校 (5. 6 年)			

1 4. 学校団体見学対応569 人参加
(鑑賞ボランティアによる対話鑑賞・教育普及学芸員によるバックヤード・キャリアプログラム)

回	月日	曜日	学校名	内 容	見学者
1	5 月 15 日	月	那覇市立銘苅小学校 (6 年)	NHK 主催 対話鑑賞プログラム	132
2	6 月 22 日	金	那覇地区特別支援学級 (中 1 ～ 3 年)	対話鑑賞プログラム	150
3	7 月 22 日	土	沖縄県立芸術大学 (一般募集)	バックヤードツアー キュレータートーク	20
4	8 月 2 日	水	うるま市小中校長会	バックヤードツアー	20
5	8 月 14 日	月	沖縄県立芸術大学学芸員実習	バックヤードツアー 学芸員鑑賞ガイド	10
6	9 月 29 日	木	伊是名村立伊是名小学校 (6 年)	学芸員鑑賞ガイド	15
7	11 月 24 日	水	沖縄市立室川小学校 (6 年)	対話鑑賞プログラム	43
8	12 月 2 日	土	沖縄県立開邦高校 (1.2 年)	バックヤードツアー 対話鑑賞プログラム	39
9	12 月 22 日	金	沖縄県立浦添工業高校 デザイン科 (1 年)	バックヤードツアー 学芸員鑑賞ガイド	79
10	2 月 1 日	木	沖縄県立浦添工業高校 デザイン科 (3 年)	学芸員鑑賞ガイド	83

15. アートミュージアムキッズクラブ

小学4年生から中学生対象に造形活動を楽しむ 毎月第3土曜日 10:00～12:00
修了作品展 平成30年3月6日～3月11日 県民ギャラリー3

回	月 日	曜日	プログラム	講 師	参加者
1	5月21日	日	キッズクラブ活動説明+バックヤードツアー コレクションギャラリー鑑賞	島筒格 富原圭子	10
2	6月17日	土	キッズクラブオリジナル my Tシャツ作り	真喜志康一 (デザイナー)	9
3・4	7月15日	土	陶芸1日目「たたらづくり」皿・コップ	金城安正 (陶芸家)	10
	7月16日	日	陶芸2日目釉薬・絵付け「てびねり」シーサー		
5	9月16日	土	フィンガーアート	教育普及	9
6	10月14日	土	藍染め*あい*を染めよう ～藍・愛・I～	江谷紋子氏 (染織家)	6
7	11月18日	土	錫細工を作ろう 自分のお守り	上原俊展 (金細工師)	14
8	12月16日	土	ドローイングマシン	植田瑞生 (教育普及担当)	7
9	1月20日	日	書画 アダンの根で筆作り	伊江隆人氏 (書道家)	8
10	2月17日	日	修了式 キッズクラブ展覧会準備	教育普及	8

16. アートコンクール535人応募

実施計画表

展示期間 11/2～11/1

回	月 日	内 容	回	期 日	内 容
1	6月5日	アートコンクール提案	9	10月21日	上位入賞者HP発表
2	6月22日	実施要項起案	10	10月22日	表彰式案内郵送
3	6月26日	チラシ・応募用紙検討	11	10月28日	賞状・立て看作成
4	7月14日	小中高応募チラシ郵送	12	10月30日	展示作業・出欠確認
5	10月15日	作品〆切	13	11月3日	表彰式 13:00～13:30
6	10月17日	表彰式打合せ	14	11月7日	佳作者賞状郵送
7	10月18.20日	審査①②	15	11月13日	展示作品撤収
8	10月20日	表彰式要項起案	16	12月	各学校、個人に作品返却

17. おきなわアート遊具体験者487人以上

回	月 日	関連した催事	場 所	人数(延べ)
1	8月5日(土)・6日(日)	夏休みこどもフェスタ	エントランス	未集計
2	10月21日(土)・22日(日)	こどもフェスタ秋 ～体験キットで遊ぼう	エントランス 博物館実習室	360
3	2月17日(土)	旧正月イベント	エントランス	未集計
4	2月23日(金)～25(日)	第10回 移動展 in 北大東島	人材交流センター	127

[さいごに]

教育普及活動は、美術館という場を通して、人と人、人と作品、人との何かが結びつく機会をつくっていく活動です。その中で、新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、見直したりすることで、新しい自分を発見する一助となり得たなら幸いです。

今年度も、シンポジウムや講演会、トークイベント、ワークショップ等に関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆さま方、たくさんの方々のお力添えのおかげで、このような報告書をまとめることができました。この場を借りて感謝を申し上げます。

平成 29 年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2018 年 3 月 31 日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1
TEL .098-941-8200（代表）

教育普及担当
富原圭子（沖縄県立博物館・美術館）
保久村智恵（沖縄美ら島財団）
植田瑞生（沖縄美ら島財団）